

北京消息 第22号

2011. 4.1

日本財団法人新潟産業促進中心北京代表処
(新潟市 北京事務所) 清明
中国北京市東城区建国門内大街18号
恒基中心 1号楼704室 電話 100005
TEL +86-10-6517-2460 FAX +86-10-6517-8687
E-mail bjniigata@niigata-ipc.or.jp
URL http://city.niigata.org.cn

3月11日に発生した、東日本大震災で被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

報告 2011. 3. 1~5

1 新潟県・市内企業が第21回華東交易会に出展

第21回華東輸出入商品交易会(以下は「華交会」という。)が3月1日から5日までの5日間上海新国際展示場で開催されました。

2001年11月にオープンした同展示場は、現在、11箇所の展示館があり、屋内展示面積が12.65万平米、屋外展示面積が10万平米、国際展示業界で最も魅力のある展示場の一つとされています。また、7つの展示館が現在増設工事中で、完成後、屋内展示面積が20万平米、屋外展示面積が13万平米に達するとのこと。

新潟県は2000年の第10回「華交会」に出展し始めて、今回で10回目の参加です(2006、2007年出展せず)。今回の「華交会」は屋内展示面積10.35万平米、標準ブース5310小間、中国国内企業が3376社、海外企業が165社出展しました。新潟県・市内からの出展企業は計23社で、「華交会」に出展して以来、最大規模でした。新潟ブースは、当県が優位性を持つ金属加工品をはじめ、衣料品、健康食品、プラスチック製品、折り畳み式キーボードなど数多くの種類を展示しました。各出展企業はこの「華交会」を通じ、情報を収集してこれから中国市場での販路を拡大しようという目標を持って積極的に商談を行いました。日本企業の展示エリアには、新潟県・新潟市のほか、石川県、岐阜県、香川県の企業も出展しました。

中国軽工芸品輸出入商会の報道によると、今回の「華交会」の輸出契約金額は前回比3.88%増の28.39億米ドル、内、紡織・アパレル商品が契約総金額の5割以上を占める15.03億米ドル、軽工芸品の輸出契約金額が11.9億米ドルで第二位でした。また、海外からのバイヤーが計20,105人、国別でみると、日本からのバイヤーが前回比9.03%増の8,562人、契約金額8.49億米ドルで第一位、その次はEU、米国でした。各展示館を回ってみると、中国の出展企業のブースで英語か日本語で積極的に商談している日本からのバイヤーの姿が大勢見かけました。これは日中貿易の高い相互依存度の現れです。

しかし、閉幕の六日後(11日)、日本では東北地方太平洋沖地震が発生し、東北地方の太平洋沿岸地域を中心に大きな被害をもたらしました。この地震の影響で、しばらくの間、日本では中国からの輸入品の一部(衣料・アパレル商品、農産品、電子製品等)が激減するかもしれないと中国政府商務部が予測し、対日輸出に依存度の高い中国企業がどのようにしてこの難関を乗り越えるかが懸念されています。(鞆)



新潟ブースの様子



新潟ブースでの商談の様子

参加

2011. 3. 10

2

第四銀行が上海駐在員事務所を開設

第四銀行は、成長が続く中国で事業を展開する県内企業のビジネスをサポートし、新潟県経済の活性化に貢献するために、3月10日上海駐在員事務所を開設しました。

- 業務内容
- ・ 中国の経済、金融動向の調査及び情報収集
 - ・ 同地域の金融機関及び企業等との連絡及び情報収集
 - ・ 取引先に対する中国進出及び貿易取引に関する情報提供 など （近藤）



上海市内で開かれた開業式典



大勢の関係者が参加

参加

2011. 3. 26～27

3

新潟清酒試飲会

3月26日、27日の二日間にわたり、北京市内の北京東單明珠中外名酒城において県内蔵元9社が参加する「新潟清酒試飲会」が開かれました。

(株)うぶまさ(本社 東京)が昨年10月に続き開く試飲会で、一日目はバイヤー、レストラン関係者などを大勢招き、二日目は酒造、飲食業関係者等を招き、新潟のお酒に理解を深めてもらいました。新潟からの参加者は自慢の清酒とともに各テーブルを回り、試飲を通じその魅力を伝え、来場者の中には「淡麗辛口」だけでなく、様々な味わいを持つ新潟清酒に驚く人もいました。

継続は力なりで、新潟県産米同様、「新潟のお酒」が徐々にここ北京でも知られていくために連携を取っていきたいと思います。（近藤）



一日目の会場の様子



蔵元9社による乾杯

4 中国メディアがアニメ・マンガフェスティバルなどを取材

去る2月26、27日の両日、新潟市内で「にいがたアニメ・マンガフェスティバル2011」が開催されました。このイベントは、これまで個別に開催していた「にいがたマンガ大賞」、「コスプレガタケット」、「新潟国際アニメ・マンガフェスティバル」の3つのイベントを初めて同時に開催したもの。

当市はこれまでも多くの著名な漫画家を輩出し、そのキャラクターを使用した「ラッピングバス」の運行や古町マンガストリートでキャラクターのモニュメントを設置するなど、いち早くアニメ・マンガ文化を政策に取り入れ広くPRしてきました。

中国でも若者を中心に人気のある日本のアニメ・マンガ・ゲーム・ファッションなどのサブカルチャー。そのアニメ・マンガを新たな観光資源として活用し、また、新潟の新たなイメージを発信することでより新潟への理解を深めてもらうことを目的に、東京駐在中国メディア2社から今般のフェスティバルを取材してもらいました。



キャラクターをプリントした“いたしゃ痛車”



キャラクターの衣装をまとった“コスプレイヤー”

来市したのは、人民網日本の王艇記者、新華通信社東京支社の馮武勇特派員、程巍カメラマンの3名。以前にも新潟を訪れたことのある彼らでしたが、新潟にこれほどの規模のアニメ・マンガ関連のイベントがあり、アニメ・マンガ文化が街に根付いていることに大変驚いた様子。

県政記念館や燕喜館で行われたコスプレスペシャルをはじめ、マンガ大賞受賞作品展、各種マンガ体験講座等々、開催期間中は精力的に各会場を取材してくれました。

また、今般の取材をとおし「サブカルチャーとして世界に知られている日本文化であるからこそ地方イベントにとどまらず、国際的な内容をもっと盛り込んでいく必要があるのではないか。」、「新潟には日本一のコシヒカリ米や日本海などの魅力と強みがある一方、新潟に行ったことのない人には『新潟はこんな街だ。』とイメージしにくい。」、「まだアピールしていないところが他にも沢山ある。」などの意見も貰いました。

滞在中には岩室温泉にも宿泊し、南区の「しろね大風と歴史の館」、江南区の「北方文化博物館」や「JA新潟市新低温米倉庫」など観光施設、農業施設なども取材しました。滞在中はもとより帰京後、今般のイベントは動画・写真・記事で約120の中国国内のサイトに配信・転載され「アニメ・マンガの聖地：新潟」を多くの中国の方へPRできたと思います。（佐藤）



受賞作品を講評される“魔夜峰央先生”



中国広州広播電視大学からの作品



西園寺 一晃先生の

中国問題レポート

NO.22

難問山積ながら大国化加速

1月23日から26日まで、北京に行って来た。今年は例年より寒く、朝晩は零下10度くらいだった。それでも街は活気に溢れていた。1つには、春節（旧正月）を迎える準備で買い物客が多いのと、もう1つは、やはり成長を続けている国独特の熱気だ。

北京では数人の学者や政府の幹部と会ったが、彼らの心配は3つあった。1つは、この冷えた日中関係をどう打開したらよいのか。2つ目は、米中関係をどう安定させたらよいのか。3つ目は、インフレをどう抑制したらよいのか。

対日関係は改善させたいと思っている。米中関係は、いろいろ矛盾はあるが、協調を基調とした関係に乗せたいと思っている。その意味では、先般の胡錦濤主席訪米は成功だったと評価している。経済については、当面はインフレの抑制、中長期的には成長構造の転換（外需型成長から内需型成長へ）を考えていると感じた。

さて、2010年の経済指標が次々と発表されている。まずはGDP成長率だが、物価上昇分を除いた実質で対前年比10.3%増加（前年は同9.2%増）し、3年ぶりに2けた成長になった。10年の名目GDPは39兆7983億元（約5兆8812億ドル）。完全にリーマンショックを克服したと言える。日本のGDP成長率は2月に発表されるが、内閣府の試算では5兆4023億ドルになるので、日中逆転は確実となった。日本は1968年に、当時の西ドイツを抜いて以来守ってきた「世界第2の経済大国」の座を、ついに中国に明け渡す時が来たのである。今後若干の波はあるにせよ、このまま中国が成長を続ければ、2025年頃には、GDPで米国に並び、追い越すだろう。

中国としては画期的な出来事だが、政府指導部や経済学者は意外と冷静だ。ある学者の見解では、①中国の成長は速すぎたため、格差問題などさまざまなアンバランスが生まれている。調和の取れた社会にはほど遠い。②これまでの成長は外需型であり、世界経済の波風をもろに受け不安定だ。これからは軸足を内需型成長に移さないと、安定的、持続的発展が望めない。③中国経済には深刻な問題が存在する。それは環境問題、エネルギー問題（1次エネルギー構成、エネルギー不足、エネルギー効率）、富の配分（格差）などで、潜在的には食糧問題もある、と言う。おそらくその外にも少子高齢化問題もあるだろう。GDPが日本を抜いたと、手放しで喜べない理由がここにあるのだ。それに、中国の人口は日本の10倍だ。1人当たりのGDPは、まだ日本の10分の1に過ぎない。将来GDPで米国に追いついても、1人当たりのGDPでは、米国の3分の1なの

だ。

そうは言っても、中国経済の勢いは本物だ。09年に大幅に落ち込んだ輸出は、完全に回復した。2010年通年の輸出は、対前年比31.3%増の1兆5779億ドルで、09年に続き世界1は確実だ。輸入も大幅に伸び、38.7%増の1兆3948億ドルで、貿易黒字は1831億ドル（対前年比-6.4%）と、やや均衡に近づいた。それでも対米、対EUの黒字は大きく、対米が1813億ドル（対前年比26.4%増）、対EUが1428億ドル（同31.5%増）だった。米国、EUからの人民元圧力は依然続くだろう。ただ米ガイトナー財務長官が言うように、インフレを加味した実質レートでは、人民元は年率10%ほど上昇しているのが実態だ。

貿易黒字は外貨準備高を引き続き押し上げている。2010年末の準備高は2兆8473億ドルになり、ダントツの世界1。これは2位の日本の倍以上である。これだけの外貨保有国だから国際金融に与える影響は大で、人民元の国際化は思ったより早くなるかもしれない。また、この豊富な外貨保有を背景に、中国の世界における資源確保にも拍車が掛かるだろう。

新車販売も依然伸びている。2010年の販売台数は1806万1900台（対前年比32.4%増）で、米国の1.56倍。生産台数は1826万4700台（同32.4%増）だった。主要国の車メーカーは全てこの世界最大市場に進出しているが、米国ではGMが、日本では日産が突出している。両社とも2010年に、中国での販売台数が自国での販売台数を上回った。

さて、世界銀行はこの度世界経済見通しを発表した。それによると、2011年の世界経済の成長率は3.3%、2012年は3.6%と緩やかに回復するとの見方だ。中国については、2011年は8.7%と予測している。中国政府は8.0%と抑え気味の予測だが、実際には10%近い成長になるだろう。

中国経済は光と影の部分を抱えながら成長を続けている。3月5日から全国人民代表大会が開かれるが、温家宝首相はどのような経済政策と目標を出すのだろう。注目すべきだ。

【筆者プロフィール】

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）氏

1944年生まれ

- 明治の元勲・公爵・首相・枢密院議長である西園寺公望氏を曾祖父に持つ。
- 西園寺公一（きんかず）氏（第一回参議院議員・日中文化交流協会常任理事）の長男。
- 北京大学経済学部卒業
- 朝日新聞社に在籍中は、日中関係の調査研究室長などを歴任。退職後も中国問題の調査、研究にあたる。
- 現在工学院大学客員教授、北京大学客員教授、伝媒大学客員教授、北京城市大学客員教授

「入学難」から「就職難」へ

北京市電話帳から調べた企業へ履歴書一枚を封筒に入れて郵送することだけで就職できたのは、今では考えられないことでしょう。ますます厳しくなる大学生の就職活動。十年前、春節が過ぎた4月前後に北京国際展覽中心で開催する大型人材募集活動を皮切りに、当年度卒業予定の大学生の就職活動が始まってしまいました。それが今では一年前に各大学は既に各自の学校で来年卒業予定の学生を中心に就職説明会を行うように変わってきました。

新聞やテレビを見れば、「就職難」に関連するニュース、番組は圧倒的に多く流れていますし、インターネットで求職、就職という言葉を入力して、検索すると、一億近く、数千万件の関連情報が出てきました。どのようにしたら順調に面接に合格できるか、「面試宝典」及び面接スキル、求職力のアップなどの内容もウェブサイトを通じて、大学生たちの間に広まっています。

いつ頃から就職が一つの社会問題になり始めたのか？

80年代に計画経済を実施した中国では「天の寵児」である大学生たちは殆ど国から仕事を割り当ててもらい、本人にとって、やりたい仕事ではないかもしれないが、大学生は各求人機関が奪い合う対象者でした。80年代末から、計画経済から市場経済の政策変化と共に、卒業した大学生は必ずしも国に分配され職に就くのではなく、面接を受ける形で自ら仕事を決定することができるようになりました。90年代になると、大学生はあちらこちらに履歴書を送り、ほぼ自分の好きな仕事を容易に見つけられるようになります。1999年、国の“高等教育の規模を拡大する”政策の実施に伴い、全国大学生の募集数は1998年の108万人から翌年の157万人まで伸び、48%上回った。2003年、新しい政策実施後の第一陣の学生は卒業しました。

入学枠拡大政策の実施による卒業生が増加、仕事の機会をそれと同じスピードで増やさなかったのは就職困難の原因の一つですが、全部ではないと思います。

ある調査会社は大学や企業を対象とする、2011年卒業予定の大学生に対するアンケート調査を行い、大学550校と企業50社が回答したそうです。調査に回答した企業50社のうち約80%が、学生らによる「給与などへの高望み」を不満としていることが明らかになり、新卒社員の転職の頻度については、企業の約20%が「たまにある」、40%が「頻繁にある」と回答した。調査結果は、自己を過大評価するものの希望通りの給与が得られず、自身の展望と異なる現実社会の「ギャップ」から逃れるために転職を繰り返す、といった大学生の様子を示唆しました。

2003年の大卒生は「80後」世代で、しかも一人っ子が殆どです。個性を追求することを重んじ、エリート意識が強く、向上心、創造力があることなどが「80後」世代の特徴だと言われています。卒業後少し経験を積み重ねてから、良いポジションに就く前の世代と違い、新卒後、すぐ北京、上海、広州、深センなどにぎやかな大都市でいい職を見つけることは新卒生らの第一希望であり、「すねかじり族」、「蟻族」（収入が極めて少ないため、大学卒業生は自然界の蟻の集団のように、郊外の家賃の安い場所に集まって住む）になっても、やはり理想や自我価値を実現したいという人は少なくないと思います。

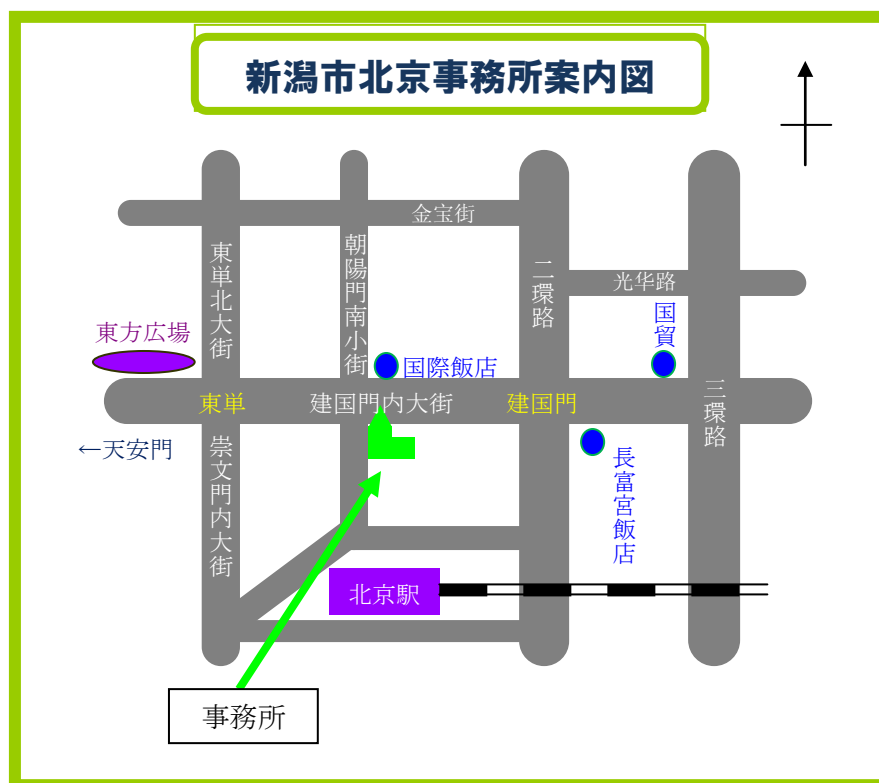
一方、学校は理論的な学習を重視、実践能力の教育が不足、専攻の設定が社会の発展スピードに追いついていないなどは就職困難の一つの要因だと分析されています。

数日前、ニュースから「CD履歴書」（芸術、武術など分野で個人の優れたところを収録し、CDに収めPRする方法）という個性的なものが就職活動に現れた、と聞きました。今年の大卒生は758万に達し、2010年の630万人より128万増えるそうです。国によるマクロ調整を期待するほか、現時点の社会実情を踏まえ、引き続き学歴を高めるか、卒業後直ちに就職するか、自らの実力を強めて、直面することしかないと思います。

(斬)



2009年金融危機後、初めて北京で行われた
大型春季人材募集活動の様子



北京市東城区建国門内大街 1 8 号

恒基中心 1 号楼 7 0 4 室

TEL +86(10)6517-2460/3340

FAX +86(10)6517-8687

<http://city.niigata.org.cn>